

## 学校における組織的対応【長野市版スクリーニング会議】

### STEP① スクリーニングの準備

- ・出欠席データを用意
- ・しなのき児童生徒意識アンケートやいじめアンケート実施後は結果を用意



### STEP② 初期スクリーニング

- ・定期的に学年会等で実施
- ・すべての児童生徒が対象
- ・①の客観的なデータにより支援が必要な児童生徒をチェック
- ・複数の教職員の主観的な視点から気になる児童生徒をチェック
- ・校内チーム支援会議で取り上げる児童生徒をピックアップ
- ・支援の方向性を決定
- ・スクリーニングシートにまとめる

**早期発見**



### STEP⑤ 支援の実践

### STEP③ 【定期】校内チーム支援会議 (長野市版スクリーニング会議)

- ・年4回以上実施(年歴に位置付け)
- ・対象は②でピックアップした児童生徒
- ・参加者は校長、教頭、教務主任、学年主任、登校支援Co、養護教諭等
- ・SSWやSC等、外部の専門家や指導主事等を交えて実施
- ・支援の内容と効果について、外部の視点で確認、状況により変更を検討し支援の方向性を決定



### STEP③' 【適宜】SSWとの学校相談 (困難ケース・緊急対応等)

- ・2~5人程度の支援策を具体的に検討
- ・支援策が行き詰っている児童生徒
- ・登校支援Coや学年職員等少人数で開催
- スクリーニング会議より時間をかけて検討できる
- SSWと懇談しながら気軽に相談できる
- 個別相談申込をしなくても相談できる
- ・支援の方向性を決定

### STEP④ 個別支援会議・関係者会議

- ・必要に応じて本人や保護者を交えた支援会議や関係者のみでの会議を開催
- ・必要に応じて教育、医療、福祉など外部関係者の出席を要請
- ・本人や保護者の意向を確認し、学校の支援について合意を図る
- ・具体的な支援策や短期目標を設定



### STEP⑤ 支援の実践

**早期対応**

- ・決定した支援の方向性に基づき、それぞれの立場で実践
- ・児童生徒の状況に応じて本人や保護者、関係者と相談、連携して実施



### STEP②③で確認・評価

### ポイント『支援の方向性を決定』

②③④において具体的な支援の方向性A~Cを決定し、役割分担に基づいた支援を実践 →

誰一人取り残さない支援の仕組み

- 支援の方向性
- A 学校支援(教職員のアプローチ、校内相談室等)
  - B 地域資源の活用(市中間教室、フリースクール、民間施設等)
  - C 専門機関の活用(医療、福祉、教育センター、児童相談所等)

個別支援会議  
関係者会議の  
開催判断

- 役割分担
- 誰が
  - いつまでに
  - 何を

支援の実践